

2015年度（平成27年年度） 順天堂大学医学部入学試験 小論文（70分）

〈解答例＝内倉〉

ロンドン・キングクロス駅は、地上駅と地下鉄を併せ持つ主要鉄道ターミナルとして有名だ。当該写真は地上に向かう階段を写していることから地下鉄駅の一角であろう。写真全体の雰囲気からだいぶ古い時代のものと推測される。地上に向けて円筒状に掘られたトンネルに幅2、3メートルの階段が備え付けられているだけの簡素な造りで、ロンドン地下鉄の愛称「tube」さながらチューブ管の中を人が移動しているといった感じだ。鉱石質の階段は経年の黒ずみが見受けられ、薄桃色の塗り壁は所々煤けている。

この写真を見ていちばんに目に留まるのが、手すりに繋がれた二つの赤い風船である。この風船を切り口として、階段を上っているコート男との関係を一つの物語として構築することはたやすい。たとえば、男は階段口の風船を子どもの戯れのそれとして一瞬ほほえましく眺めたとか、鬱屈した毎日を送る男にとって色鮮やかな風船は一服の清涼剤となったとかいった具合にである。しかし、写真の示す時代的要素を抜きにしたストーリー化はあまり意味がない。それより、フレーム内の情報をもとにした時代考証の末に、現代との対照で赤い風船を意味づけすることの方がいくらか興味深いことだ。

天頂部に取り付けられた蛍光灯は数も光量も少なく、男の足下を照らす以上の機能は期待されていないようだ。ヨーロッパ伝統の塗り壁材は洗練される以前のもので装飾性が一切うかがわれない。だからこそ真っ赤な風船がひととき目立つのである。世界で初めて地下鉄を開通させたロンドンの地下鉄駅は、建て替えや改装を繰り返し、今日では時代に見合ったモダンなものになっていることだろう。それゆえに現代の連絡通路に施されているような装飾の出発点は意外にもこの二つの風船だったといえるかもしれない。